

あわら

ナシのカラス被害急増

本年度捕獲数も3倍に

あわら市は本年度の有害鳥獣による農作物被害状況をまとめ11日、市会産業建設常任委員会で説明した。カラスによるナシ被害額は2019年度の39万円を大幅に上回る、過去最高の550万円となった。

イノシシ、ハクビシン、アライグマ、カラスを合わせた被害面積は32畝と、19年度に比べ10倍を超える数値。被害額も1089万円に倍近くになった。

鳥獣被害の大半を占めるのが、カラスによる波松地区でのナシ被害。過去5年間は被害額が少なく推移していたが、本年度は額の増加だけでなく捕獲数も19年度の約3倍の106羽。個体数の増加が懸念されると

いう。

市は対策として、防鳥のワイヤを波松地区で整備する。ナシ農家58戸28畝のうち、申請のあった41戸18畝を対象に、新年度当初予算で2858万円を盛った。

(東村淳悟)

セントピア釜風呂閉鎖の方針を決定

あわら市

あわら市は11日、昨年火災が起きた同市温泉4丁目の温泉施設「セントピアあわら」の釜風呂を閉鎖する方針を明らかにした。「市が1千万円近くをかけて建て直すことは考えていない」としている。

同日開かれた市会産業建